

**1. 事業報告並びに事業計画**

- (1-1) 日本放射線影響学会第63回大会(2020年)の準備状況(大会長:鈴木義行 会員)  
いろいろと、ご心配をおかけしており、申し訳ございません。何とか、準備が整いつつあります。ただし、財政状況が厳しく、1人でも多く、できれば、7割以上の会員の参加をお願いいたします。
- 1-1-1 開催日:令和2年(2020年)10月15日(木)~17日(土)  
WEB開催に変更。一部、Live配信(15、16日)。  
参加登録期間10月26日まで、視聴期間10月末まで。  
令和3年(2021年)2月20日(土)に福島市内にてサテライトシンポを予定(コロナ感染状況次第)。  
その前日(2月19日)に福島第一原子力発電所ツアー(有料、WEB学会参加登録が条件)。
- 1-1-2 開催場所:(WEB)EBMふくしま製造開発センターFIST(福島市野田町3丁目5番15号、福島駅西口より徒歩約10分)。(サテライト:予定)ザ・セレクトン福島(福島駅西口より徒歩1分)。
- 1-1-3 テーマ:被災地のレジリエンスと放射線医科学のイノベーション  
プログラム:大会HPを参照  
市民公開講座:なし  
WEB懇親会:10月15日(木)、18時~
- (1-2) 日本放射線影響学会第64回大会(2021年)の準備状況(大会長:田内広 理事)
- 1-2-1 開催日:令和3年(2021年)9月22日(水)~24日(金)
- 1-2-2 開催場所:ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県民文化センター)(茨城県水戸市千波町東久保697番地、JR水戸駅より徒歩20分・バス10分)
- 1-2-3 テーマ:原点回帰:「はじまりの地」から放射線影響研究の未来へ。特別講演、市民公開講座についてはこれから検討・依頼の予定。
- 1-2-4 実行委員長は立花章 会員(茨城大学)、プログラム委員長は横谷明德 会員(QST)で運営する。
- 1-2-5 実行委員について、茨城県内の研究機関等に所属する会員に委嘱した。
- (1-3) 日本放射線影響学会第65回大会(2022年)の準備状況(大会長:児玉靖司 会員)
- 1-3-1 開催日:令和4年(2022年)9月中旬ごろ
- 1-3-2 開催場所:大阪府立大学
- 1-3-3 テーマ:未定
- 1-3-4 実行委員長は川西優喜 会員(大阪府立大学)、及びプログラム委員長は白石一乗 会員(大阪府立大学)で運営する予定。
- (1-4) 共催・協賛・後援
- 1-4-1 令和2年(2020年)6月2日(火)~令和2年(2020年)9月30日(水)までに共催・協賛・後援を決定した学術集会等は下記参照。
- 【共催】原子力総合シンポジウム2020、主催:日本学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会、開催日:令和2年(2020年)9月30日(水)、開催場所:オンライン開催。
  - 【協賛】第58回アイソトープ・放射線研究発表会、主催:公益財団法人 日本アイソトープ協会、開催日:令和3年(2021年)7月頃、開催場所:オンライン開催又は首都圏会場開催。
  - 【後援】量子生命科学学会第2回大会、主催:一般社団法人量子生命科学学会、開催日:令和2年(2020年)12月23日(水)~24日(木)、開催場所:オンライン開催。
- (1-5) 各種推薦
- 1-5-1 放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等協同利用運営委員会委員として小林純也 学術評議員と森田明典 会員を推薦した。
- 1-5-2 第58回アイソトープ・放射線研究発表会運営委員として飯塚大輔 学術評議員を推薦した。
- (1-6) 理事会の開催  
令和2年度第1回理事会(令和2年(2020年)6月27日(土))を対面及びウェブで行い、第2回理事会(令和2年(2020年)7月28日(火)~7月29日(水))、第3回理事会(令和2年(2020年)9月18日(金)~9月23日(火))をメール会議で開催した。
- (1-7) 社員総会の開催  
令和2年度第1回社員総会(令和2年(2020年)6月27日(土))を対面で行い、第2回社員総会(令和2年(2020年)8月12日(水)~8月19日(水))をメール会議で開催した。

(1-8) 選挙によらない学術評議員候補の選出

伊吹裕子 会員、大野みずき 会員、神田玲子 会員、長谷川正俊 会員、吉永信治 会員の 5 名が第 2 回理事会で選挙によらない学術評議員候補として決定され、第 2 回社員総会で 5 名の選出を決定した。

2. 各委員会からの活動報告及び活動予定

(2-1) 財務委員会（委員長：田代聡 副理事長）

2-1-1 随時、予算の執行状況を調査し、特段の問題が無いことを確認。

2-1-2 令和 2 年度予算の修正および令和 3 年度予算を作成。

2-1-3 令和 2 年 10 月 11 日（日）に財務委員会を開催予定。

(2-2) 編集委員会（委員長：児玉靖司 会員、担当理事：松本義久 副理事長）

2-2-1 計画通り JRR 誌を定期的に発行した。前回の報告以降の発行は次の通り。Vol.61, Issue 4 (July, 2020), Issue 5 (September, 2020)を発行済み。

2-2-2 JRR 誌の 2019 年インパクトファクターは、1.950 (2018 年=2.014) であった。2019 年の総被引用回数=431 (2017/2018 年の総掲載論文数=221)。5 year impact factor=2.169。

2-2-3 2020 年度 Journal of Radiation Research 寺島論文賞は、3 編の応募論文のなかから、次の論文に決定した。

Ono K, Tanaka H, Tamari Y, Watanabe T, Suzuki M, Masunaga, S, Proposal for determining absolute biological effectiveness of boron neutron capture therapy-the effect of  $^{10}\text{B}(n,\alpha)^7\text{Li}$  dose can be predicted from the nucleocytoplasmic ratio or the cell size. J Radiat Res, 60, 29-36, 2019.

2-2-4 2019 年度編集委員会（5 月 14 日～22 日：メール会議）において、JRR 誌の基礎研究分野に関するカテゴリーについて議論した。現在は投稿時には、「Radiation Research (Basic Science)」、また、雑誌発行時には、「Biology」と分類され両者が一致しておらず、編集ミスが起きやすい状況であった。そこで、委員会としては分野名を統一することに決定した。また、統一分野名は 2020 年度の編集委員会で決定することになった。

2-2-5 2020 年度編集委員会では、第 1 回メール会議（9 月 8 日～11 日）での議論を経て、9 月 28 日（月）に WEB 会議を開催し、基礎研究分野名を「Fundamental radiation science」に決定した。

(2-3) 広報出版委員会（委員長：松本義久 副理事長、論文紹介企画小委員会委員長：鈴木正敏 学術評議員）

2-3-1 メーリングリストによる学会通信配信を随時実施。配信依頼から、配信可否の判断、フォーマット修正などを行い、ほとんどの場合、1 日以内に配信を実施した。内容は理事会ならびに事務局からの各種連絡や募集に加え、研究集会案内、教職員公募などが主である。令和 2 年（2020 年）6 月 27 日（土）の社員総会から令和 2 年（2020 年）9 月 27 日（日）までに 51 件の配信を行った。

2-3-2 メールアドレスの更新を随時行い、令和 2 年（2020 年）9 月 28 日（月）時点で 888 名分が登録されている（一部、マイページあるいはメールアドレスを登録していない会員や、複数のアドレスを登録している会員がいるため、事務局から報告される会員数とは一致しない）。令和元年（2020 年）6 月 27 日（土）の前回社員総会時より 25 名増加した。

2-3-3 学会ホームページの更新を随時実施した。

2-3-4 第 1 回広報出版委員会を開催し（令和 2 年（2020 年）8 月 4 日（火）～8 月 5 日（水）、メール審議）を行った。論文紹介企画小委員会委員について、同小委員会の鈴木正敏委員長から出された委員案を、全員の賛成をもって承認した。選出された委員は、以下の通りである（13 名、敬称略）。

鈴木正敏（委員長）、片岡隆浩（副委員長）、安井博宣（副委員長）、恵谷玲央、戒田篤志、神長輝一、近藤夏子、多賀正尊、月本光俊、永根大幹、中村麻子、吉野浩教、中山貴文

2-3-5 前回の社員総会報告後、1 件の論文紹介記事（書評）を最新論文情報のページに掲載した。令和 2 年（2020 年）度の論文紹介を 10 月から再開し、毎月 2 件ずつ紹介する予定で準備を進めている。

2-3-6 令和 2 年（2020 年）9 月 1 日に吉永信治 会員（広島大学）から、原爆被爆者の標本のデータベース化および公開事業を促進するためのクラウドファンディングの周知依頼があった。これを受けて配信の可否について広報委員会内で検討した。その結果、放射線影響研究において重要な資源の維持に関わり、かつ、研究の促進につながる公益性、公共性の高いものであることから、配信可と結論し、令和 2 年（2020 年）9 月 8 日に配信した。これに関して、第 3 回理事会で相談事として、理事の意見を聴取した。クラウドファンディングについては、今後増加が予想されることから、対応について、必要に応じて倫理委員会などと連携を取りながら、本委員会で引き続き検討することとした。

(2-4) 放射線災害対応委員会（委員長：田内広 理事）

2-4-1 令和 2 年（2020 年）9 月に第 1 回のメール会議を開催し、今後の活動方針を決定した。活動方針と概要は以下のとおり。なお、今後も委員会はメール会議を中心に進める予定である。

- 2-4-2 各団体との連携や依頼に基づく Q&A セミナー活動ならびにメール等による Q&A 対応を継続して行う。なお、令和 2 年（2020 年）の福島県郡山市教育委員会との連携による放射線セミナーについてはすでに開始している。
- 2-4-3 「トリチウムによる健康影響」について、邦文の PDF は当学会ホームページに掲載済みであるが、国内在住の外国人のために、また世界への情報発信を目的として、「Health Effects Triggered by Tritium: Public Understanding Based on Scientifically Supported Evidence」（英文）を作成し、当学会誌 Journal of Radiation Research（JRR）への掲載を目指している。また、JRR への掲載後、一般向けへの「トリチウムによる健康影響」（邦文）の冊子を刊行したいと考えている。
- 2-4-4 福島県を中心とした自治体からの専門家派遣依頼にも対応する。なお、平成 31 年（2019 年）4 月に 2 期目が発足した大熊町除染検証委員会へは宇佐美徳子 会員を派遣し、常磐線の全線開通に貢献してきた。同委員会は令和 2 年（2020 年）3 月に一度解散となっているが、今年度についても設置の見込みであるので引き続き宇佐美委員を派遣する予定である。
- (2-5) 企画委員会（委員長：島田義也 理事長）
- 2-5-1 令和 2 年（2020 年）の日本放射線影響学会第 63 回大会の開催にあたり、新型コロナ対策として、WEB 開催を行なうサポートをした。
- 2-5-2 令和 3 年（2021 年）の日本放射線影響学会第 64 回大会の開催に当たり、茨城大学の田内広 会員を大会長として開催する。令和 4 年（2022 年）の第 65 回大会は、大阪府立大学の児玉靖司 会員を大会長として開催する。
- 2-5-3 当学会は、他学会との連携並びに国際性を高める。第 63 回大会は、日本放射線腫瘍学会、日本小児血液・がん学会、日本原子力学会、日本遺伝学会、Radiation Research Society (USA) と連携し、合同シンポジウムを企画、または協力した。
- 2-5-4 令和 5 年（2023 年）の ICRP シンポジウムを東京で開催することが計画されており、ICRP 委員である甲斐倫明 会員から ICRP シンポジウムに合わせて、令和 5 年（2023 年）を保健物理学会と当学会共同で行いたいとの提案があった。令和 5 年（2023 年）の第 66 回大会は、保健物理学会との共催で、東京近辺で開催することの検討を始めた。令和 5 年（2023 年）の日本放射線影響学会第 66 回大会大会長の募集を行った。
- 2-5-5 大会開催に伴い、大会事務局の努力で大会終了後に返金がある。大会運営のための有効な返金の使途について検討を始め、来年度までに、理事会に案を提出する。
- 2-5-6 賛助会員への感謝状並びに学会活動が分かるニュースレター的な報告書を作成し、送ることとした。
- (2-6) グローバル化委員会（委員長：富田雅典 理事、若手部会部会長：永根大幹 学術評議員）
- 2-6-1 令和 2（2020 年）度第 1 回理事会において引き続き本委員会が設置されることになり、委員として、富田雅典 理事（委員長）、飯塚大輔 学術評議員、大野みずき 学術評議員、小嶋光明 会員、永根大幹 若手部会部会長、平山亮一 学術評議員、房知輝 会員、前田宗利 学術評議員、松本孔貴 会員、三浦雅彦 学術評議員が選任された。また、令和 2（2020 年）度第 3 回理事会において、本学会理事会・委員会等のウェブ会議において使用する Zoom アカウントを購入し適切に管理・運用する目的で、藤通有希 会員を委員に追加することが承認された。
- 2-6-2 令和元年（2019 年）11 月 15 日（金）、若手放射線生物学研究会が本学会との合流を正式に希望したことを受けて、若手放射線生物学研究会の合流に伴う準備検討委員会を新たに設置して検討した結果、令和 2（2020 年）年 3 月 31 日（火）付で本委員会に「若手部会」を設置した。令和元年（2019 年）度第 13 回理事会において若手部会規程、令和元年（2019 年）度第 6 回グローバル化委員会（令和 2 年（2020 年） 6 月 10 日（水）～6 月 15 日（月）・メール審議）において若手部会細則を制定した。令和 2（2020 年）度第 1 回理事会において、若手部会会長に永根大幹 会員が選任され、令和 2 年（2020 年）度第 1 回グローバル化委員会（令和 2 年（2020 年） 8 月 4 日（火）～8 月 11 日（火）・メール審議）において、部会役員として神崎訓枝 会員（副部会長）、石川純也 会員、砂押正章 会員、藤通有希 会員、房知輝 会員を選任した。令和 2 年（2020 年）6 月 8 日時点での会員数は 31 名であり、学会マイページにおいて随時、入会を受け付けている。
- 2-6-3 令和 2（2020 年）度第 2 回理事会において、SIT（Scholar-in-Training）ワークショップ準備検討小委員会の設置が承認され、委員長として平山亮一 学術評議員が選任された。設置期間は現理事会の任期末（令和 4 年度定時社員総会終了時）まで。令和 2 年（2020 年）度第 2 回グローバル化委員会（令和 2 年（2020 年） 8 月 14 日（金）～8 月 20 日（木）・メール審議）において、小委員会委員として、大塚健介 会員、神崎訓枝 会員、柳原晃弘 会員、坂田律 学術評議員、中村麻子 学術評議員、横田裕一郎 会員、吉野浩教 学術評議員を選任した。今後、大会長、企画委員会、および若手人材の確保・育成に関係する各委員会と連携して、SIT ワークショップ開催に向けた検討を進める。
- 2-6-4 5th ACRR は、令和 3 年（2021 年）11 月 17 日（水）～19 日（金）にインド・ムンバイにおいて開催

予定。大会長は、K. P. Mishra 博士。今後、令和 7 年（2025 年）の 6th ACRR の開催地として立候補するか否かについて検討する必要がある。

2-6-5 ICRR2023 は、カナダ・モントリオールにおいて開催予定。

2-6-6 令和 2 年（2020 年）2 月 9 日（日）に開催された日本放射線研究連合（JARR）幹事会において、役人の選出が行われた。本学会より、宮川清 学術評議員、飯塚大輔 学術評議員、原田浩 学術評議員の 3 名が、それぞれ会長、庶務幹事、監事に選出された。他に、三浦雅彦 学術評議員（日本放射線腫瘍学会生物部会）および吉田陽一 氏（日本放射線化学会）が副会長、田中憲一 氏（日本医学物理学会）が監事に選出された。また、高橋昭久 学術評議員を、JARR 指定の IARR Councilor として推薦することが決まった。次回 JARR 幹事会は、令和 3 年（2021 年）2 月 6 日（土）～7 日（日）開催予定の癌治療増感シンポジウムに合わせて奈良で開催予定。

2-6-7 第 63 回大会 LIVE 配信 1 日目（令和 2 年（2020 年）10 月 15 日（木））に、若手部会企画シンポジウム「細胞競合で考える放射線発がん」（座長：永根大幹 若手部会部会長、藤通有希 会員）、LIVE 配信 2 日目（令和 2 年（2020 年）10 月 16 日（金））に、日本放射線影響学会-日本放射線腫瘍学会-日本小児血液・がん学会合同シンポジウム「小児・成人放射線治療の進歩と克服すべき新たな課題」（座長：島田義也 理事長、田代聡 副理事長）を開催予定。本学会合同シンポジウムの企画は、企画委員会と協力して行った。また、大会前日（令和 2 年（2020 年）10 月 14 日（水））に、若手部会第 1 回総会をオンライン開催する（日本マイクロビーム生物研究会・高 LET 研究会と合同）。開催予定であった、日本放射線影響学会-日本原子力学会／福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会合同シンポジウム「福島復興と廃炉推進に向けた学会連携の取り組み」は、協議の結果第 64 回大会での開催を目指すことになった。第 64、65 回大会でも関連学協会との連携企画を開催する予定。

2-6-8 日本遺伝学会第 92 回大会（令和 2 年（2020 年）9 月 16 日（水）～19 日（土）・くまもと県民交流館パレア）において、本学会との合同シンポジウム「遺伝性疾患と放射線・紫外線・化学物質による発がん影響」（座長：篠原美紀 会員、富田雅典 理事）を開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて現地開催が中止され、プログラム・予稿集の出版をもって大会の開催に替えることになった。

2-6-9 学会活動のグローバル化促進のために、FLASH 放射線治療法に関する専門研究会のオンライン開催について引き続き検討を進めている。

(2-7) キャリアパス・男女共同参画委員会（委員長：細谷紀子 常任理事）

2-7-1 第 63 回大会のライブ配信前日（令和 2 年 10 月 14 日（水）16:00～17:15）に、学会員を対象に、第 7 回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「ウイズコロナ・ポストコロナ時代の研究推進のための知恵」を Zoom でオンライン開催する。事前アンケートを行い、緊急事態宣言期間中、解除後（ウイズコロナ時代）の研究活動（研究活動に影響を与え得る個人的事情や生活環境を含む）において、学会員がどのような苦勞をし、どのような工夫をして乗り越えてきたのかの経験談、そして、ポストコロナ時代に向けての研究推進のための知恵や提言を収集し、セミナーで公表する。また、新たな試みとして、Zoom のブレイクアウトセッション機能を活用したグループディスカッションも行う。Zoom でのミーティング設定や事前準備を含め、企画・運営は委員会で独立して行い、委員長が「ホスト」を務める。セキュリティ対策として、複数ステップの申し込み体制を構築した（参加のためには、Google フォームからの「参加申込」と当該 Zoom ミーティングへの「事前登録」を必須とする）。理事全員の出席をお願いしている。

2-7-2 男女共同参画に関わる大会参加支援の 1 つとして、年次大会参加中に開催地における託児サービス利用した学会員に対して託児費用を補助する制度を整えるべく、令和 2 年（2020 年）9 月に「託児費用援助規程」を理事会に提案し、承認された。第 63 回大会においては、同大会が「WEB 開催」となったことを受け、令和 2 年（2020 年）10 月 15 日、16 日のライブ配信プログラムに参加するために福島のライブ配信会場に来場する座長や一部の演者で現地での託児サービスを利用する学会員に対してこの制度を適用する。ライブ配信終了後の令和 2 年（2020 年）10 月 19 日（月）から 11 月 30 日（月）にかけて申請を受け付ける方針である。

2-7-3 第 63 回大会大会長の協力のもと、大会 HP からの参加登録時に属性調査（女性比率、所属、職階、年代）が実施されている。後日、学会通信、および、委員会 HP で集計結果を発表する。

2-7-4 令和 2 年（2020 年）10 月 14 日（水）（第 7 回委員会企画セミナー終了後）から 11 月 6 日（金）にかけて、令和 2 年（2020 年）度キャリアパス・男女共同参画アンケートを Google フォームを用いて実施する予定である。第 7 回委員会企画セミナーの感想や今後のセミナーへの要望、今後の年次大会開催地での託児サービス利用のニーズ、様々な事情やニーズを抱える会員が学会活動に参加しやすくするためのアイデアや提案を含め、キャリアパス・男女共同参画活動に関する意見・要望などを広く収集する内容となっている。

2-7-5 平成 28 年度より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟学協会として参加している。令和 2

年（2020年）10月17日（土）に第18回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムがWEB開催される。本学会としては、例年通りシンポジウム資料集に本学会のキャリアパス・男女共同参画に関する活動報告を掲載するとともに、初めてポスター発表にも参加する。

- 2-7-6 男女共同参画学協会連絡会が実施する各種調査に参加している。令和2年（2020年）度は「加盟学協会の活動推移調査」の年にあたり、平成30年（2018年）10月～令和元年（2019年）9月および令和元年（2019年）10月～令和2年（2020年）9月の2年分について、本学会で男女共同参画シンポジウムに相当する活動を行った回数、および、大会開催地での託児サービスを利用した人数のデータを提供した。調査結果がまとまり次第、男女共同参画学協会連絡会のHPで公開される予定。
- 2-7-7 学会通信やホームページを活用した情報発信を適宜行った。

(2-8) 規約委員会（委員長：小林純也 副理事長）

- 2-8-1 庶務担当理事の下に庶務補佐を新設すること、各委員会委員長の社員総会でのオブザーバー参加を規定すること、学術顧問の社員総会でのオブザーバー参加を規定するための学会規程の改定について、令和2年度第1回規約委員会（令和2年（2020年）8月31日（月）～9月7日（月）にメール会議で開催）で審議を行い、理事長・理事会に報告し、学会規程改定は第3回理事会において審議・承認され、第3回社員総会において審議することとなった。
- 2-8-2 細則に規定される学術集会（大会）に関する事項が定款及び現状と合致していないため、それらを是正するため細則改定について第1回規約委員会において審議を行い、理事長・理事会に報告し、学会規程改定は第3回理事会において審議・承認された。
- 2-8-3 キャリアパス・男女共同参画委員会委員長から託児費用援助規程案に対する意見を求められたため、規約委員会委員に回覧し意見交換を行って、質問事項をとりまとめ、キャリアパス・男女共同参画委員会委員長に提出した。質問事項の回答についても規約委員会委員間で確認を行った。

(2-9) 賞等選考委員会（委員長：今岡達彦 常任理事）

- 2-9-1 「第11回日本学術振興会育志賞」受賞候補者の日本学術振興会への電子申請を行った。
- 2-9-2 「第12回東急財団社会貢献環境学術賞」受賞候補者を募集したが、応募はなかった。
- 2-9-3 「第13回永井隆平和記念・長崎賞」受賞候補者の選考を行い、長崎・ヒバクシャ医療国際協力会に推薦した。
- 2-9-4 「令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞、若手科学者賞、研究支援賞」受賞候補の募集、選考を行い、1名を文部科学省に推薦した。
- 2-9-5 「2020年度朝日賞」受賞候補者を募集したが、応募はなかった。
- 2-9-6 「第29回木原記念財団学術賞」受賞候補者を募集したが、応募はなかった。
- 2-9-7 「第41回猿橋賞」受賞候補者を募集中である。
- 2-9-8 「放射線影響研究功績賞及び放射線影響研究奨励賞」受賞候補者を募集中である。
- 2-9-9 令和2年度日本放射線影響学会各賞、名誉会員、功労会員の募集及び選考を行い、学会賞1名、奨励賞2名、功績賞1名、岩崎民子賞1名、功労会員1名、名誉会員1名を理事会に推薦した。
- 2-9-10 第63回大会への学生旅費援助については、令和2年（2020年）10月の大会ではなく令和3年（2021年）2月のサテライト大会を対象に募集する予定。
- 2-9-11 その他、外部からの受賞候補者推薦依頼があり次第、対応する予定。

(2-10) 学術委員会（委員長：今岡達彦 常任理事）

- 2-10-1 三浦富智 委員が第63回大会優秀演題発表賞の選考委員を務めている。
- 2-10-2 放射線科学に関連する企画運営等の依頼があった時に、必要に応じて企画委員会等と連携しつつ、検討する。

(2-11) 倫理委員会（委員長：藤堂剛 会員、担当理事：田代聡 副理事長）

- 2-11-1 本学会が主催する大会や研究会等での発表における利益相反の開示について、他の学術団体等での状況調査を参考に、本学会独自の開示基準を定めるとともに発表用テンプレートを作成する。
- 2-11-2 研究においては、個人情報・ヒト遺伝子解析研究の倫理、遺伝子組換え実験、動物実験の倫理等の審査が必須となっている。利益相反の開示に加え、これらの審査承認結果を本学会が主催する大会や研究会等での発表において開示する必要性について検討する。
- 2-11-3 クラウドファンディング周知依頼の対応について、依頼受理の基準を広報出版委員会とともに検討する。

(2-12) 教育研修委員会（委員長：立花章 会員、担当理事：田内広 理事）

- 2-12-1 生物学者のための疫学研修会を令和2年（2020年）8月24・25日に開催する予定だったが開催されなかった。

(2-13) 放射線リスク・防護検討委員会（委員長：児玉靖司 会員、担当理事：小林純也 副理事長）

- 2-13-1 日本保健物理学会との合同委員会である低線量リスク委員会（2019 年度終了）では、これまでの 2 年間の活動の総括としてまとめた「低線量リスクに関するコンセンサスと課題」に関するレポートが、放射線生物研究の 6 月号（vol.55, No.2, 2020）に掲載された。
- 2-13-2 放射線安全規制研究戦略的推進事業「放射線防護研究分野における課題解決型ネットワークとアンブレラ型統合プラットフォームの形成（以後、アンブレラ事業、代表：神田玲子 学術評議員）」の第 12 回（令和 2 年（2020 年）6 月 11 日（木））、及び第 13 回（令和 2 年（2020 年）8 月 20 日（木））、代表者会議が WEB 会議で開催され、児玉靖司 委員長、小林純也 副理事長が出席した。この席において、「放射線防護対策の推進に関する調査と提言ならびに放射線防護人材の確保・育成」に関する本委員会の今年度の活動計画について説明した。
- 2-13-3 今年度は本委員会の下に、「確定的影響の RBE に関する小委員会」（委員長：保田浩志 会員）と「放射線災害時の線量推定に関する小委員会」（委員長：三浦富智 会員）を設置し、それぞれ確定的影響の RBE とその線量評価における諸問題、並びに放射線災害時の緊急時における線量推定法の評価と提言について取り組むことにした。さらに、放射線防護人材の確保・育成の活動については、アンブレラ事業が、主に若手研究者支援のために今年度取り組む予定の「Web での個別相談会」に、本学会会員が相談者として参加する用意があることを伝えた。
- 2-13-4 アンブレラ事業では、「実効線量と実用量に関するワーキンググループ（WG）」を立ち上げることになり、当学会からは、床次眞司 会員をメンバーとして推薦した。当該 WG は、線量に関する正しい理解のために役立つ Webinar の開催を令和 2 年（2020 年）度 10 月から 5 回ほど開催することを計画している。

(2-14) 学会事務局

2-14-1 会員動向：令和 2 年（2020 年）9 月 30 日（水）現在（括弧内は令和 2 年（2020 年）5 月 31 日（日）時点）

- 旧名簿：学会員総数 839（848）名・うち女性 189（194）名  
正会員 636（652）名・うち女性 149（157）名、学生会員 86（80）名・うち女性 30（27）名、海外会員 16（16）名・うち女性 1（1）名、名誉会員 40（40）名・うち女性 1（1）名、功労会員 5（5）名・うち女性 0（0）名、終身会員 56（55）名・うち女性 8（8）名。
- 新名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数 792（792）名・うち女性 184（188）名  
正会員 606（610）名・うち女性 144（151）名、学生会員 85（82）名・うち女性 30（27）名、海外会員 10（10）名・うち女性 1（1）名、名誉会員 33（35）名・うち女性 1（1）名、功労会員 3（1）名・うち女性 0（0）名、終身会員 55（54）名・うち女性 8（8）名。  
※名誉会員、功労会員は登録情報相違による修正のため変動が生じた。正しくは令和 2 年（2020 年）9 月 30 日（水）現在の会員数となる。

以上